



一般社団法人あらかしき

大分県大分市王子中町3番5号 ふくろうの森ビル
TEL.097-511-1293 FAX.097-511-1293



ビルから街へ。人から人へ。
楽しいから 商いへ。

「商業×福祉」が街に活気を、利用者に社会参加の日常を。



~2021.7

5 事業成果物

●助成契約書記載の成果物名称

報告書
フリーペーパー

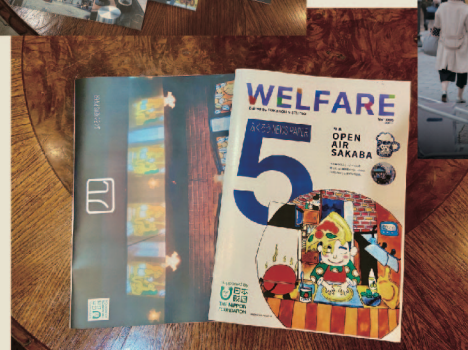
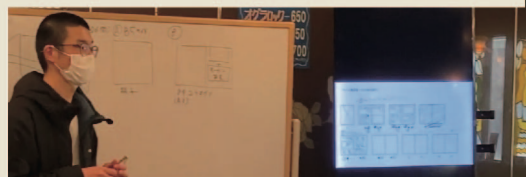
●事業完了時の成果物名称

報告書
配布用グラフィック版報告書 500部
フリーペーパー Vo1~Vo5 1500部

●未作成となった要因

●成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fukuro5.com>



街の中に息づく
わたしたちの
あたらしい姿



商業×福祉のモデル事業として

府内5番街の一角にメディアセンターを構えたことで、コロナ前から足繁く通って関係を育てていた商店街の方々の繋がりがより緊密になるきっかけになりました。5番街の人気ラーメン店とのコラボ企画や商店街事務局の街の管理事業の委託、イベントの設営・撤去だけでなく、運営にも関わる姿勢と可能性が評価され、大分県□□□□からの打診を受け、全国に先駆けて「商福連携のモデル事業」として、今後の運営を県とも協議しながら進めていくことになりました。



王子町、府内町、外部イベント参加の場合も、
つねにZOOMで各拠点を繋ぎ、それぞれの気配を感じながら仕事をするように留意。
組織全体での一体感、所属感を醸成し、チームとしての意識を育むことを大切にしています。
それぞれの専門が異なる組織であり、そのことによって単なる分担作業、孤独な利用者をつくらぬよう、
つねに最新の注意を払いながら
地域社会の中に溶け込んだ事業展開を行っています。

TELE WORK



コロナ渦でそれぞれの「やってみたい」ことを磨きながら、
街の中でさまざまな出会いを経て、輝きを生み始めています。
街そのものの「担い手」として活躍が始まっています。

WITH 5 AVENUE

商店街で商いをするそれぞれの商人たちを
街全体を盛り上げるためにする事業をつくることで
横断的に巻き込みながら、これまでにない事業を立ち上げました。
メディアセンターを拠点に
街の美化や広報、イベントの企画、運営などを
共に作り上げていく状況を作ることができました。





LIVE

活動4年目のユニットは今年、外部の式場から招かれて単独ライブを開催



DESIGN

利用者自身が打ち合わせをして、ディレクションし、作り上げていく広報制作物。



みんなで協力しながら数々の広報制作を手がけています。



ART

こつこつと制作と発表を続けてきたアーティストは大分銀行より依頼を受けて今年、個展を開催。メディアイベントにも参加し続けている。

ひろがる私たちの「仕事」

※掲載はあくまでも一例です。

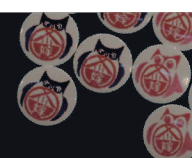
活動4年目の千晶トリオ。さまざまな外部施設やイベントでの演奏を依頼されるように。



仕上がった広報制作物とクライアント

大分合同新聞「職人×表現」コラボ企画での紙面。

※すべて依頼を受けてのお仕事です。



in Funai 5 Avenue

メディアアセンター勤務のスタッフは、横断的に協力し合うチームとして機能しています。



ライブ配信

イベント運営
&メニュー開発

グッズ制作

司会(MC)

小商い(オリジナルピザなど)

取材(写真・動画)

SNS発信&
動画編集

ICT
(データ管理運用など)



街の中で「仕事をする」ことが日常に。

商店街事務局との連携もしながら、徐々に街の広報についての依頼や相談も増え、さまざまなお仕事が生まれ事業のマネタイズへの道筋がみえてきました。



*すべて依頼を受けてのお仕事です。

7月31日

明礬温泉
湯の花マルシェ

5番街での活動をきっかけに別府市明礬温泉でのイベント開催が実現。当日は天気にも恵まれ、ソーシャルディスタンスに配慮しながら、王子町のふくろうの森ビル利用者（B型就労支援施設）ともそれぞれ企画を立ち上げて出店。コロナ下で商業と福祉の可能性を広げる取り組みを実現できた。



東京より熱烈な愛を込めて。

NEXT PROJECT START
From LDL To FUKUROU

FUKUROU
× LDL 406
Long Distance Love LLC

<https://longdistancelove.jp>

「FUKUROU 406」とは？

「FUKUROU 5 STUDIO」(FS)と「Long Distance Love LLC」(LDL)が共同で手掛けるプロジェクトの総称。

ちなみに「406」とは府内五番街の全長が406メートルであることに由来する。掲載スタッフ初めてのキックオフミーティング(Zoom)の際に、栗田(LDL)から出た「五番街ってどれくらいの長さなんだろう」という素朴な疑問に、直観に引っかかったFUKUROU 5 STUDIOスタッフが実現してくれたところ「406メートル」という驚くべき数字が導き出されたことが契機。

ここからは繋がって406メートルを「FUNAI」とする新しい単位を作った、大分市内の通りや建物の高さなどを「FUNAI」で表したら、新しい地図が出来るとは・・・など、さまざまなアイデアが次々と浮かぶ。さらになんと「商品名に「406」がはいったフリスビー(アメリカ製)も偶然発見し、ますます「406」という数字が今後のプロジェクトに大きな意味を持つような予感が。

①メディア編集事業

「OITA in TOKYO」〜東京に息づく大分〜をテーマに、東京で活躍する様々な人達へのインタビューや活動内容(活躍の様子)を紹介。

②新規事業を見据えたコンテンツ開発

「田ノ浦枇杷」を使った大分の新しい食テーマの推進(中東・パルシヤ料理研究家「中田マリ」氏)。

③大分⇄東京プロジェクトの推進

・FMADJ(メディア、アート、カルチャー拠点作り)
・TOKYO LAB.×「OITA JAZZ」(新しい音楽ムーブメント作り・栗田ノ浦ビーターフェス)

CEO MESSAGE

僕が大分バルコの店長だった2003〜2007年はバブル経済が暴落して「失われた10年(20年とも)」と書かれた時期。ご多分に漏れず、大分もいわゆる「市街地中心部の空洞化現象」が進行して、郊外にオープンした多機能型商業施設にお客様を獲てそぎ持っていくだけで、まさに駅前中心部はぼろりと大きな穴が開いたような有様でした。かつて「大分市民の誇り」とまで書かれたファッションビル「福丸」も、閉店時の売上の6割まで落ち込み、文字通り窮地に立たされていました。そんな状況の中、なぜか、府内町(五番街)再開発にはよって真実な空気感を感じていました。昔の中のざわつきには耳を貸さない、というかどこか真の自然自若とした立ち振る舞いで、不況に苦しむ駅前と舞臺街「都町」の中間をフワフワと漂っていました。時は流れ(惜しまれながら、2011年大分「バルコ」閉店)、あらたな世界的偉業CORONAが証を留め出した2020年(代)、その府内町が新たな動きを見せています。その中心は五番街の古い雑居ビル(「喫茶モーガン」跡地)に誕生したメディアセンター「FUKUROU 406」。その仕掛け人は僕が大分バルコに赴任した時に最初に会った人物、古山圭二さん。一般社団法人「あやしき」代表としてさまざまな事業を手がける他、ミュージシャン(sax)、バーテンダーの顔を持つ彼との再会は、自分にとって第二の故郷・大分での新しい事業の創造という、バルコ店長以上に劇画的なプロジェクトに挑むことがきっかけとなりました。詳しく話を聞く前は「メディアセンター」とはずいぶん大きく出たな、とも思いましたが、未来に向けたビジョンと実現に向けた情熱に並々ならぬ本気度を感じ取り、東京から熱烈なラブコールを送って、お手伝いすることになりました。

2020年(以降)はまさに「with CORONA」です。これまでの「メディア」の意味や役割が大きく変化し、「センター(中心)」の位置もズレ始めています。そんなタイミングでの「メディアセンター(府内町)」の出現は、(おおげさに聞こえるかもしれない)実はとても大きな事件かもしれません。単に新しいだけの情報発信・共有の機能を備えるだけでなく、身近な、あるいは、世界中のメディアやコンテンツを産み出す人や出来事を発見し、繋ぎ、新しい価値を具体的に創造する「プラットフォームとしてのメディア」になる...そのセンターは大分・府内町「FUKUROU 406」。事物のように聞こえるかもしれませんが、今や情報はいづれも、どこからでも、誰でも発信できます。その中心は東京でも無ければ、「日本のへそ(中心)」を主張する名古屋でも、もちろんありません。重要なのは、その情報をつまみ組み合わせて、素晴らしいアイデアに繋げる役割を果たすこと(※1)。僕の会社名「Long Distance Love」は「遠距離恋愛」の意味(※2)。いつもはなかなか会えない恋人同士のように、「遠く」にありながら(真実なものを)強く惹かれ合うものを引き合わせ、新たな価値を産み出す役割を担いたいという意思を込めました。なので、今回の「FUKUROU 406×LDL」によるプロジェクトはまさに必然の成る業と書えます。

※1「シェアード・ユース」の名称「アイデアのつくりかた」にある「アイデアとは他者の言葉の新しい組み合わせ」から「Long Distance Love」は業の対称的なアメリカンロックバンド「リトル・ファイター」の創始者の名をタイトルでもなっています。ちなみに僕も「長距離」は「長生」(コトノハ)という事柄も。

CEO 栗田 廣次
Hirotugu Shibata



※TOKYO LAB 2019より